

8-4-10 河川計画専門委員会

1. 主な活動の記録

(1) 委員会の開催

専門委員会を計 9 回（4 月～12 月）開催し、河川講習会、河川見学会等の企画・運営について審議した。委員会は対面と Web を併用した。

(2) 河川講習会の開催

第 33 回河川講習会を Web 形式で開催した。今年度は総視聴回数 1,043 回、同時視聴者数 645 名と多くの方に参加いただいた。テーマは令和 3 年 11 月に改正された「流域治水関連法」を踏まえ、「流域治水～地域協働の取組事例と DX の役割～」として 3 名の講師にご講演いただいた。

a) 開催日時

令和 6 年 10 月 25 日（金）13:00～16:30

b) 講演テーマと講演者

- ①「令和 4 年 8 月大雨を踏まえた水害に強いまちづくりの検討について」 小松市技監 浮田 博文 氏
- ②「グリーンインフラまちづくりと雨庭の展開」 特定非営利活動法人雨水まちづくりサポート 理事長 神谷 博 氏
- ③「流域総合水管理の取組を支える流域ビジネスインテリジェンス」 一般社団法人国土技術研究センター 技術・調達政策グループ総括 早川 潤 氏

c) 参加者：タイムリーな講演内容であり、最新の取組事例が紹介されることから、河川だけでなく都市計画、上下水道、道路・橋梁等の技術者の参加も多く（全体の約 1/3）見られた。

d) 講演概要：浮田技監からは、水害に強いまちづくりを推進するための小松市における取組状況と直面している課題について紹介いただいた。神谷理事長には、流域グリーンインフラ手法として注目されている雨庭の先行的な取組事例を中心に説明いただいた。早川総括からは、河川管理情報基盤(3 次元 GIS)を活用した実践的な河川管理の紹介、流域総合水管理を支

える取組として、防災・減災分野における DX の推進による流域ビジネスインテリジェンス(データに基づく的確・迅速な意思決定)について解説いただいた。

(3) 河川見学会の開催

全国の若手技術者等を対象に、第 17 回河川見学会を開催した。今年度は初の中国地方での開催とし、参加者は 40 名であった。

a) 開催日時

令和 6 年 11 月 7 日（木）12:30～17:40

b) 目的と開催場所

- ・目的：地域特性に合致した流域治水への取組について学ぶことを目的とした。
- ・開催場所：大州雨水貯留池、矢口川排水機場

c) 見学内容

浸水対策事業として MAZDA スタジアム広島の地下に整備された大州雨水貯留池の施設を見学した。また、総合内水対策として設置された矢口川排水機場では緊急内水ポンプ、矢口川水門、主ポンプ、除塵機等を見学するとともに、太田川河川事務所施設管理課長と意見交換を行った。

(4) 研修会への講師の派遣

全国建設研修センターより要請を受け、2 テーマの自治体職員向け研修会へ講師派遣を行った。

(5) 国土技術政策総合研究所との意見交換

河道計画及び河道設計で用いる解析手法に関して意見交換するとともに、土木学会の「2024 年河川技術に関するシンポジウム」オーガナイズドセッションで発表した。

(6) RCCM 自主教材の改訂

RCCM 自主教材の改訂の必要性について確認を行い、修正作業を実施した。

2. 次年度の活動について

会員からの開催要望が多い河川講習会、河川見学会及び対外的活動（講師派遣、意見交換会等）等を継続して実施する。

（河川計画専門委員会委員長 中村 謙一）